

徳泉寺報

No.0015

発行
平成31年1月

発行元 徳泉寺

仙台市宮城野区
榴岡 3-10-3

(022) 297-4248

修正会(しゅししょうえ) 勤修



平成三十一年一月一日十時三十分より、徳泉寺本堂にて元日法要「修正会」を勤修いたしました。新年にふさわしい明るい日差しにあふれた早朝より多くの方にご参集いただき、ご門徒さんをはじめとしたご縁有る方々と共に新年を迎えることができましたこと、大変ありがとうございましたと感じております。小さなお子さんから大正生まれの方まで本堂いっぱいのみなさまと襟を正して一緒にお勤めをして、今年も大切に日々を歩んでいけたらと気持ちを新たにいたしました。

住職は「どうやったって自分は自分で、どうやったって誰かにはなれない」という歌詞を掲げて、私が唯一無二のわたしであることの大切さ、そして私が私であるためには自分を認めてわかってくれる周りの環境がいかに大切かということについてお話ししました。

また前任住職は「当たり前前にできることがいかに尊いことか」について。自分が年齢を重ねるにつれて、当たり前前が当たり前でなくなっていく現実と直面し、いまある自分を有り難く生きていく大切さを説きました。

その後同朋会館に移動して、ご挨拶を交わり、賑やかに談笑して新年初日を過ごしました。



住職 四国へ行く

—お坊さんも災害について考える—

昨年是一年の文字に「災」が選ばれる程災害が多く、他人事にできない状況になってきているように感じています。

一月初旬、真宗大谷派(災害)ボランティア研修会のスタッフとして四国の土佐別院に行つて来ました。参加者は主に近畿地方のお坊さんたちで、寺院における防災や減災、発災後にお寺で何ができるかを考えました。「ダンスのそばで寝ない」「家具を留めておく」などの基本的なことや、普段からできることとして「地域や住民の皆さんとつながりをつくる」「備蓄をして報恩講の時に使って更新する」「お斎で炊き出し訓練をする」などの意見も。発災後に何ができるかということについては「お寺を避難所にする」「井戸水を提供する」「お寺がボランティア・物資の拠点になる」「様々な職業の門徒さんに協力してもらおう」など活発に意見が出されていきました。このような研修を通して災害に対する意識を深め、普段から協力できる関係性を作っていければと思います。



防災庫の備品をチェック



災害について考える



土佐別院(高知市)